令和3年9月1日現在	
総世帯数	2,003世帯
総人口	4,837人
男	2,378人
女	2,459人

恒例の平和祈念式典行われる

過去の悲惨な戦争を風化させることなく後世に伝え、永遠の平和を祈念する式典が8月21日（土）平和祈念碑前で町会関係者20名ほどの参加にて開催された。

今年もコロナウイルス感染症拡大の影響で縮小し行われた。黙祷を捧げ、倉科実行委員長の式辞と碑文の朗読の後、戦没者の名前の刻まれた慰霊碑に参加者全員が献花して世界の恒久平和への思いを新たにしました。

楽しかった とうもろこし収穫

8月5日に南荒井子供夏まつりが開催されました。コロナ対策として飲食が伴う催しを中止して大幅に規模を縮小し、南荒井在住の小学生約60人がとうもろこし収穫体験とゲームを楽しみました。

とうもろこし体験では南荒井の稲取会の指導で収穫を行いました。感染対策でグループに分かれて順番に収穫を行いました。公民館ではスーパーボールすくい、お菓子つりなど行いました。参加した小学生は「初めて参加してとうもろこしの取り方も知らなかったけど、簡単で楽しかった」との感想でした。また、南荒井地区PTAの村瀬理恵地区会長は「（開催について賛否があるが）地区PTAの皆さんからもご賛同頂けて、地区の大半の児童が参加してくれた。子供たちが楽しそうで嬉しかった。」とのことでした。

楽しく覚える「パソコン喫茶」

福祉ひろばで毎月第3木曜日の13時30分から15時位までパソコン喫茶が開催されています。講師に南荒井の上原章さんを招き参加者それぞれのレベルに合わせ、皆で楽しく受講しています。パソコンは各自持ち寄りで、同じワード（文章作成ソフト）でもエクセル（表計算ソフト）でもパソコンによりバージョンが違いますが、それに対応できるようにサポート役としてスタッフ6名も参加し、操作が不明の時は即座に対応しています。ワード・エクセルの共通の教材がありそれをもとにやっていきたいとの事です。参加者は登録せずに自由参加でやっているのでいつでも参加できるとの事で、現在は10人位の参加者です。参加者へのアンケートから「文章が少しでもできればと思い参加しました。仲間が出来た事が一番です。」、「PC（パソコン）は苦手と思っていたのですが、何回も繰り返しやっていると少しずつですが理解できるようになり楽しくできるようになってきました。今はこの講座に来ることはとても楽しみです。」スタッフ6名は丸山公民館長・三村主事・福祉ひろばの塩原・赤羽コーディネーター・部外から丸山一秋さん・上原芙美枝さんです。

鎖川

鎖川にニセアカシアの木が生い茂っている。いったい何時からこんなにニセアカシアが増えてしまったのだろう。

以前、川岸は大きな石がごろごろとむき出しになっていたか砂利のところがほとんどだった。大きな木などなく、せいぜいヤナギやクヌギがあった程度だ。調べてみると日本中の河川でニセアカシアが景観や生物多様性に大きな影響をあたえているようだ。

明治以降に街路樹、砂防林などの目的で海外から持ち込まれ、おそらく鎖川にも植栽されたのだろう。これが一つ目の原因だ。そして二つ目は、洪水対策のため河床を下げ、流れを一定化したことがあるそうだ。ニセアカシアは乾燥した地質を好むそうだ。暮らしを良くしようと事業を行った結果だったのだが、皮肉なものだ。

とはいえニセアカシアから採れた蜂蜜は美味しいそうだし、薪は高品質なのだそうだ。ニセアカシアに罪はない。上手く共存するのが良さそうだ。

神林にこの人あり！シリーズ

「一人劇の人形芝居を」8
くすのき燕（つばめ）さん（南荒井）

神林には人形劇で優れた演者がいる。くすのき燕さん（人形芝居燕屋）。神林を活動拠点とし、国内外で公演や演出などで幅広く活動している。燕屋さんは一人で劇を行う「肩掛け人形芝居」というスタイルで人形劇を行う。このやり方は現代ではあまり見ないが文献では古くは室町時代から、江戸時代にはまだあったやり方でそれを一人でやるスタイルに改めた。東京で活動していたが、体調を崩した事もあって、環境を変えるため松本に拠点を移した。今でも県内外から多くの公演の依頼がある。子どもだけでなく、大人も楽しめ、人形芝居の他に腹話術や物を使った演目なども魅力だ。

「伝統と新技術に挑戦」9
安井　雅人さん（南荒井）

「いい音は当たり前で丈夫なギターを作ることがヘッドウェイのギター作りの基本です。」と教えてくれたのは南荒井在住の安井雅人さん。老舗アコースティックギターブランド「ヘッドウェイ」の技術責任者で、最高級シリーズ「カスタムシリーズ」を製作できるのは安井さんを含め3人だけという国内屈指の一流のギター職人だ。「ギター作りは木の管理が重要。例えば乾燥済みとして買付けた木もさらに自社で乾燥工程に入れます。」といったこだわりのギター作りを信条とする。高校生の時ギターに魅了され専門学校を経て現会社に入社、東京から松本に移住した。ギター作りに没頭する日々だが、時間があれば自宅のウッドデッキや石窯などを自作するという職人らしいが家族思いな一面もある。伝統のギター作りに加えて新しいことにも挑戦している。今後の更なる発展が期待される。

「積層造形・ミニ楽器作り」10
上條　悦子さん（南荒井）

上條さんは、福岡にいた小学生の頃から父が結納一式（水引き）を作る姿に興味を持ち続け、図工好きで大工道具を借り一升桝を作ったら、素人離れしていると指導者に褒められ今度はギターを作ってみた。それがまた上手過ぎて同僚の嫉妬にあった。ある時ミニギターを作る職人の技に興味を持ちミニチュアバイオリンなどの楽器を創るうちジャカランダ材（アルゼンチン産）が世界一響きが良い板になる木だと知った。それ等の廃材を薄い板にし、積み張り合わせ積層大工製品（ブローチ）を作る事になった。令和元年11月に両島の井口ギャラリー「風雅」で『作る喜び・木の工芸展』を開いた。上條さんは「木材の生命力を活かし作る工芸品は美しいです」と語った。

キーワードはなに？

本紙神林版の記事内にキーワードの文字が散りばめられています。見つけて言葉にしてください。わかった方は神林公民館に備え付けの用紙に必要事項を記入してご応募ください。アンケートにお答えいただいた正解者の中から抽選で**5名に500円分の図書カード**をプレゼント！締切は**10月29日(金)**、当選発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。多数のご応募お待ちしています！

【前回の答え】（※さいかいも可）　**【今回のキーワード】**

ごりんかいさい　○○○○○○○○

五部門委員会紹介（文化委員会）ポスターコンクール誕生とは

今年で36回目となるポスターコンクールは、昭和61年5月の公民館運営委員会で「夏休み中に子供たちを体育館に集めて、習字か文化祭・運動会のポスターを作り、神林中に掲示したらどうだろう」との提案を受け採択された。この年の夏休み中に作られたポスターが神林中に張られ11月3日の文化祭を盛り上げた。初の商工会と農協の協賛で外に3張りのテント店を出し、入賞者の表彰と、これも初の敬老祝賀会を開き、150人のお年寄りを招待しての文化祭となった。当時のポスターコンクールは、大会長賞・公民館長賞・実行委員長賞・特別賞を一般・中学生・小学生に分け表彰していた。これまでの応募点数は2千点を超えている。近年は文化委員とともに小・中学校PTA役員が積極的に作品応募に尽力している。